

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和5年度 技術情報第7号(早期水稻のいもち病)について (送付)

早期水稻のいもち病について、下記のとおり取りまとめましたので、周知およびご指導をよろしくお願いいたします。

なお、本情報は病害虫防除所ホームページ (www.jpnp.ne.jp/kagoshima) にも掲載しています。



## 令和5年度 技術情報第7号

6月中旬に早期水稻でいもち病の発生地点が増加しています。梅雨に入り、いもち病の発生に好適な条件が続いていることから、ほ場をよく見回り、葉いもち発生ほ場については、穂いもち防除を実施してください。

1 対象病害虫 いもち病 (穂いもち)

2 対象作物 早期水稻

### 3 発生状況及び情報の根拠

- 6月13～14日に実施した巡回調査で南薩及び大隅地域の早期水稻を調査したところ、葉いもちの発生ほ場率は、25.0%で前回の6月2日調査(5.0%)より上昇し、中程度のほ場も認められる(表1)。
- 九州南部地方の向こう1か月の気象予報(6月8日鹿児島地方気象台発表)によると、平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されており、いもち病の発生に好適な条件が続く。
- 特に、気温の日較差が大きく、イネの葉に朝露が長く付着するような山間部等のいもち病の常発地では、発生拡大が懸念される。

### 4 防除上注意すべき事項

- ほ場を巡回し、いもち病の発生を確認する。ほ場の中心など湿度の高い場所で坪状に発生していることもあるので注意する。
- 葉いもちの発生ほ場及び発生ほ場の周辺ほ場では、穂ばらみ期から穂ぞろい期に、液剤または粉剤により、穂いもちの防除を実施する。

### 5 調査結果

表1 早期水稻ほ場におけるいもち病の地域別、発生程度別割合(令和5年6月13～14日調査)

地域 <sup>1)</sup>	発生ほ場率(%) <sup>2)</sup>		発生程度別割合(%)				
	本年	平年 <sup>3)</sup>	甚	多	中	少	無
南薩	21.4	29.3	0	0	7	14	79
大隅	28.5	17.9	0	0	0	29	71
平均	25.0	23.6	0	0	4	21	75

注1) 地域別の調査地点；南薩：開聞、穎娃、吹上、金峰、加世田、大浦、日吉  
大隅：有明、大崎、東串良、串良、高山、吾平、田代  
熊毛：いもち病の発生は認めていない(聞き取り)

注2) 発生ほ場率(%)=発生ほ場数/調査ほ場数×100

注3) 平年は過去10年間(平成25年～令和4年)の平均値